中央大学父母連絡会

Kusa no Midori

草のみどり

2022
9
Vol.333

Special feature

キャンパスライフ体験会

FRONT LiNE 総合政策学部

Chuo University Parents Liaison Association

学部情報 7

国際経営学部

BE AHEAD OF THE WORLD

世界を動かす人になろう

Vol.15

″きっかけ″のための絵本を届ける「ねこまえプロジェクト」

国際経営学部国際経営学科4年
神奈川県立横浜国際高等学出身
鈴木（すずき）日向子（ひなこ）

「27108」

皆さん、この数字は何を表していると思いますか？

「27108」は、2019年から2020年の1年間で殺処分された猫の数です。衝撃的な数ですよね。私はコロナ禍に始めた保護猫活動の中で、殺処分や猫への虐待、多頭飼育崩壊などの悲しい現実を知りました。「この現実を少しでも良くしたい！」そう思って始めたのが、クラウドファンディング「ねこまえプロジェクト」です。

ねこまえプロジェクトとは

ねこまえプロジェクトは、猫と暮らす前に読む絵本を作成し、保育園、幼稚園、小学校、図書館等の子どもたちの目に留まる場所に寄贈することを目的に、友人と2人で行った企画です。

始めたきっかけは二つあります。まず一つ目は、保護猫活動の中で現実を知り、何かしたいと漠然と感じていたことです。そして二つ目は、電通のインターンシップに応募したことです。私が応募したのは、アイデア実現インターンシップという、自分の放っておけないことをクラウドファンディングで解決するものでした。そこで企画が通過したので、本格的にプロジェクトをスタートさせました。

ねこまえプロジェクトを一緒に進めた佐々木さん

まず、私がインターンシップを通して解決したい根本的な課題を、「猫が置かれている残酷な現状を多くの方が知らないこと」に設定しました。また、その原因は動物の命に関する教育を受けたことがない人が多く、普段話題になることもないからだと考えました。そこで、ねこまえプロジェクトでは、未来を担う子どもたちが現状を知り、これからを考えるきっかけとなる絵本を作ることに決めました。

絵本「ぼくわからないよ」

絵本の絵は保護猫活動で知り合ったプロのイラストレーターの方に依頼し、ストーリーは私とプロジェクトメンバーの佐々木さんで共作しました。

テーマは、知ることと考えること。知ってほしいのは、悲しい現状と「さくらねこ」の存在、考えてほしいのは、命の大切さです。このテーマに基づき、子どもたちに考えてもらうきっかけとなるよう、問いかけで終わる絵本づくりをベースにストーリーを組み立てていきました。

目標の556%（68万円）を達成

インターンシップ開始から1カ月後、多くの方の協力を得て、ねこまえプロジェクトのクラウドファンディングを公開しました。開始2日目には目標額を達成し、最終

「さくらねこ」とは、

不妊手術を完了した証として
さくらの花びらのような
イヤーカットを施されたねこ
のことです

的には目標の5倍以上のご支援をいただきました。このご支援のおかげで、全国約300カ所に絵本を寄贈できています。

ここで目標達成のために意識したポイントは、明確なターゲット設定です。ねこまえプロジェクトは、子どもたちに知る・考えるきっかけをつくる絵本を届ける企画です。そのため、一貫して親世代をターゲットにホームページ作成、リターン製作、宣伝等を行いました。

その中で特に注力したのは宣伝です。SNS戦略では、Instagram・Twitter上でねこまえプロジェクトのアカウントを作成し、情報を毎日発信しました。

また、この機会に始めた自身の猫アカウントでは合計約5千人の方にフォローしていただき、多くの方にアプローチすることができました。加えて、チラシを作成し、小学校やカフェ、図書館等に置いていただくことで、親世代の方に親しみやすくしました。さらに、市長との話し合いやプロジェクトの様子を新聞やテレビなどのメディアに取り上げていただくこともできました。

クラウドファンディングページ

ゼミでの学びとのつながり

私は、飯田朝子教授のゼミに所属し、広告のキャッチコピーやネーミング等の言葉について学び、自身では色の持つ心理効果の研究をしています。その学びを、ねこまえプロジェクトでうまく活用できたように感じます。

たとえば、ねこまえプロジェクトは、「猫と暮らす前に読む絵本を子どもたちに届けたい！」を短くした呼び名です。キャッチーで興味を示してもらえるような名前を意識しました。また、本プロジェクトのテーマカラーは、ピンクと紺に設定しました。ピンクは、さくらねこ、ハートフルさ、かわいらしさを、紺は、誠実さ、信頼感、平和を印象付ける色として選びました。ほかにも、絵本作成やチラシ作成の際に、関心や信頼感を抱いていただけるような言葉や色選びを意識したことが、宣伝の成功につながったと感じています。

今回、機会に恵まれたことで、大きく自身をレベルアップさせることができました。ねこまえプロジェクトにご協力いただいた皆さま、ご支援いただいた皆さま、ならびに応援してくださった皆さまには、感謝の気持ちでいっぱいです。今もどこかで絵本が読まれているのかな、と思うとドキドキします。

是非皆さまも、絵本「ぼくわからないよ」を見つけたら読んでみてください。

国際経営学部だより

国際経営学部の数学基礎教育

国際経営学部教授　鳥居（とりい） 昭夫（あきお）

企業経営や経済環境の成果は利益額などの数字で表されますし、国際経営学部内で学ぶ多くの科目では数学を使います。卒業後もデータ分析や統計処理を業務として遂行しなければならない機会も多くなってくるでしょう。学部も、これらの動向に応えられるような数学・統計関連の授業やカリキュラムを用意しています。

しかし、国際経営学部は理系か文系かと問われたらやはり文系に入るのでしょうか。数学の入試を経ていない学生がほとんどです。どの学生も数学が大切だということを理解していると思いますが、すべての学生が数学を問題なく使えるとは限りません。さまざまな学生の数学の学習を支援すべく、国際経営学部は数学の講義を現在2コース用意しています。私はより基礎的なコースを担当しています。

数学を苦手とする学生は、原理を理解し、公式を暗記して使いこなせなければならないと思い込んでいることが多いようです。高校までは数学の試験にパスするよう、そうした勉強に励んできたと思います。一方、大学の数学は、数学を専門としようとしない限り、その都度公式を見ながら計算アプリを使って答えを得られれば十分です。経済経営で必要とされるのは、数学を道具として使う力です。公式集でもアプリでも、何でも使って答えを得ることができれば目的は達成できます。面倒な掛け算も電卓で計算できればよく、一つ一つ手書きで計算しなければならないわけではないのと同じです。ただ、基本的な知識がないと、せっかくの道具も使うに使えません。数学の講義ではそうした最低限の考え方を示し、必要なときにネット等で調べて使えるようになることをめざしています。理解していなければ使えないことはありません。原理がわからずとも、使っているうちにだんだん意味を理解できるようになることも多くあります。学生には、苦手意識のまま数学を避けずに、道具として使い倒してくれることを願っています。